



諸國名錄下

拾

鳳中晴

諸國名錄下



諸国名録下 四季混雜

出羽 糸浜松島下連

雪のりり踏むも道程の細の糸 素涼坊

風なりりれらあそびあそびとそ 梅二

海士のりり世の縁をる月もあそび 馬文

三月月やあそびく指をのりり流む 唇秋

お角とあそびあそびと甲し梅二 冬海坊

あのももあそびて居るあそびあそび 昌隆

201

梅も出て日の氣味くやうにいと ね茶

ふもよ佛のしんや実南天 ね茶

山吹やねん枝と枝よふ芳 中茶

白萩のそりとりきり砂の上 素純

鶯尾や石の佛一よ向まて 在武 多册

二丁まで書きの筆とちあまぬ 江二

日新道遠館連

山吹やあふらんおちり 境川 表よ

中ねらや羽織もまきの鏡よはめり かの狂

およやまのまのきりも水柱ふ 里松

歌うんはま下もちんねね様 とい夕

ふ時や又あまをちて浮の夕 志侑

日新道遠館連

きん捨れ淋も月情や表のむ 若松

柳をらん家あ白のや寝めく金 文里

よをるまてまてよまの政ゆい 孝曉

借る水はまはし居並ふ麻のれ 孝定

日不嬰の全書連

雪のるまや一羽ののきこ一羽より 以榮

それくの義法何お一葉の みの

草花よく露床も涼 新あや免 九八

泣くちをくりよる竹林の鳥 里香

新い乳の追はなう 篠りれ 以柱

初丁のあやま川ふ月も月 赤左

葛又おのほりあまもや秋の風 淑柳

口くはくそと吐きこくはくはの月 境孝

同新二枚書連

考よ初まはしそ水も幾初まは 赤夕

草木のよや人よりそくはなす川 交英

月ハ月一して木のうらうら 龍花 女 百穂

草花のよはく日めあま 龍花 傳志

空のけりそく日し川やみは花 起月

静しきもてその山とねふやきくのと
花湖

少日あるよりいそ折や後の月
知名

さるさといひやるといふとさういふ
汝伯

兼原小出連

みよしの京日和くもて牡丹い
花笠

初まらやうとて鳥の志あらよ
涼花

退くそちうとぬさるよのさる林のさる
雲守

新法何れ何れいさうきよの月
東茂

世もふくしうとくあう紅のい
李国

房くまう人てさうのそ花のそ
板我

紙をよとていれさういさうみ牡丹
帆二

啼く居るそちとさういさうかんこ
悪和

花のいそ、穉よ始の田く我
蘭再

日新宮

春のいそ折る若くして山はく
東若

静くやういれはるよと舞をてり
喜仙

草木の心や春の心のこころも な 縁

日新成田

お世一の門のふと路中のち 洗二

片眼く地をこころけ 全和

掃掃や春門の 字考

春倉く瓶 一鬼

泉園

秋風や春く 柳考

己巻山下連

おま方や追ふ 毒仙

春 布仙

公 文杜

障子 芦洲

を 瓢尼

す 芦鏡

あ 蒼里

掃 松吟

林ちりー星のゆりのまふもまね
 出れし神ーかきく水と流ゆの
 川旁や竹うく竹の船うま
 ちつくりー鶴く産はく河ぬま
 お流の神口まきーぬいぬま
 小せりーちりーまふまふーちふま
 ぬまーぬまふふぬまぬまぬま
 ぬまーぬまの男とちぬまぬまぬま

陸奥

茶屋

先達

十巻

の令

友た

は用流

古亭

川井連

雲ふちりーちりーまふまふーちふま
 夕まふや赤まふまふまふまふまふ
 中くま目の傍ぬまぬまぬまぬま
 まふまふまふまふまふまふまふ
 初まふまふまふまふまふまふまふ
 まふまふまふまふまふまふまふ

水手

雲文

蘭文

東浜荒砥

汁煮

馬仙

周呂

梅

とてちりり木末の雪の降

庭雨

隙のやうな氣きつて息をい合

市権

どのまゝや枝の細いさきうけ

物乞

倦てまゝ山にたゞしづかぬ

文取

り枯やゆゑにきてみ一獲

落丘

華も去るの古んやまのゆ

杜白

まふ柳やを産くはし運ひ列

味月

さみしき心さかす月を離るる

五光

寂上人石田

ふさやうな枝をたぐり居た

好和

まゝのやうな机を産くさあふ

以多

大根の袖のまゝに九月を

幸任

柳のまゝにまゝにわらひあふ

風亭

まゝのやうな氣をたぐり山梅

只狂

尾を注

つれづれ産居る風亭

梅亭
梅亭
梅亭

川物の局こまきよは座りきか
権五

世帯りまてのるも 練靴を
百花

おぬも 遠水とんずいもふれのか
芳安

まろくはまろくはまろくはまろくは
望凡

君をく川舟くわふねてまのまの能きり
竹里

まふ橋やあつりあつりまのまの能きり
柳緑

川舟のまをまをふふおきおきは
吟かき二

出代いでりやあをあをふふおきおきは
昆女

茶のむやむやはは色川いろがわなるなるざん
隔水

一あいりやりおをおをははくくやや新子のあははをを川
を川

ふふくくららははままののかりかりてて山やまははららくく
之遊

ゆゆききししややもも水みづ湯ゆももんん椽えんののええ
林泉りんせん

ままろろくくははままのの火ひ羅らののききももままのの田たひひ
仙志

ままろろくくははままののおおののままのの月つき
二涼ふたすず

日新

心こころのの又また一ひとつつきき一ひとつつきき一ひとつつきき一ひとつつきき
心涼

初後よふいふをてやぬ了
本隠れの房も成思一程の房
堂巻

毛河江

末より一隣の至根の甄うれ
宇相
了てれく能く又斗をーうれひ
菱川
窓えん一ゆりほつてゝまをきー
花涼
まののまやをふやうをの海のみ
免立
はもあしん推火のゆりまおふー
魚科

と人の原はよあやうをささき
東里
まゆさゆてまていもやこーまの極
相吉
目よあさうと目よほそりし水柱水
市曉
松よまの儘水いせわてはるまふひ
虚舟

山形

まゆあ、目を神のまてす
山能
はぬやうおれをしり所もさふ
里桂
まのまゆはあれの人れま
吉市

まんじろや吸くくをぬ羅ふら
 其泉
 唐の人の森をて月水の石く乳
 恵思
 いつこつちやちりちりさうと山はさ
 久世
 ろんるんま水と彼も福も如
 香嵐
 よんねーまよすしと家の由
 文溪
 福常や縁くく元るお星り
 赤紅
 花その山と凡呂林大さうり九月る
 里迄
 厨火汁は成午舞のられる紙言
 之有

日新武門連

夕まや海くあふ月あり
 暮曉
 ろろろのやあぬれまきうのたの
 公城
 娘をほくか娘の迎る夜やりの
 唯丸
 二階く二階く世も月く乳
 風之
 娘下ふやあんとく風のそ新
 紫江
 平ももまきり重き重くまほの一里
 荒笑
 卯の志やえまきと日のる信
 如川

瀬波よよりくるるるれ 止丘

えせのちりさき山よりよきき有 松夏

夕晴やとほく柳の一在所 是日

風やきりしゆく塔の上 正夏

日流井言中

梅うまや二十七日の 新日和 風五

梅ちりきもなま一すの白くうか 傍 無介

それよきき一遊ひさきき丹丹 ねき

きゆくくけのありれは梅のあ 智弁

火くくくくくありまれあ 女 白糸

柳やまよくくくく 梅 日義 流素

日山おき連中

えきあやけのりあれりけの 流素

あのをれきくくくく月原一 五才

原ほくくくくくくく 小き

あきりくくくくくくく 小林

七十一

き自のやとてあつたはは清水も 午考

月夜を山を枯の葉をよみしを京 朝色

うらむとくく夕息れを多限 花雪

苔地

うらむとくく夕息れを多限 梅溪

下つるやとてあつたはは清水も 梅英

新穂や雪あつたはは清水も 芽雪

書所のちも旅りよ 彼雪う水 志水

松門為ヶ園

あつたはは清水も 文化

あつたはは清水も 翠雪

あつたはは清水も 知春

あつたはは清水も 文華

あつたはは清水も 二心

あつたはは清水も 蘭香

あつたはは清水も 羽衣

ちしや一よよまき風いそむい 女自

入日月のあしたさるて舞舟い 右降

はさきやまきかきめいみさの 亀石

むしきあはれいあやめい 菜穂

菜木のあやまのちいこあれい 更淨

名月やあいらういぬされ上 の常

あめいさるちういさるちういぬさるちうい やノ梅

あめいさるちういさるちういぬさるちうい 英洗

滑く船も漕ふとまはるの月い 壺友

菜木のいやはいよあはれい 仙を

門先のいとほくいとほくの香 親油

月おやあはれい柳のいよあはれい 吾千

糸えりうさるちうい 内裏 雅 長松丸

袖くらやいよあはれい目をいよあはれい 幸亦

これいよあはれいさるちういあはれい 桂路

可くさるちういあはれいさるちういあはれい 平原

。きぬいしるれはきく柳、うさ 荷葉
をのくや一夢はくしめゆの藤 貞五

日所

手紙録中

こゝろと風のをて居る柳、れ 荷葉
物のささりー金つらぬおのり 探訪
庭あやや毎うしきわんてり 風よ
吐ーさくさくさくさくお葉摘ふ 水鳥
赤あいのきく心くやまらるる 芙蓉

ろろや馬のあふ病のふりーふ 沙亮
えよおていさくまぬのな田やれ 眠家
凡のさき起ーしりやまのふ 柳斗
あれやせーつふ連はるし藤のあ 夕忌
膝のとよ火入 揺くねの月 再喜
まろくやこらいのさん早ー様 二様
さふらうらえんはきまて山 櫻序
益やゆとまじり生り 瓢、うれ 茫名

遠くへいへいなるをのりぬ 故人 之南

日所

清く静くをるるがまのるふ 既蘇乃

日所

ふれや目きぬぬれ月 鳥野重中 指月

目くぬれしてあるは 年田

云佐

鳥野重中

様掃やちん 文二

川物やあぬぬ 心

され 所

運 其是

柳 古松

心 以文

堂 指長

る 其

ち 其

三山とていふおしんりや
吾

志山とていふおしんりや
悟

象鼻やあられまのておと
のこま

札とていふし掃くさの林
六考

山流とていふしおれぬ
其風

高知海西

梅とていふや
九紅

梅とていふや
虚右

かとうとていふや
兔云

氣の体とていふや
李青

いとらんとていふや
二仲

いとらんとていふや
子健

いとらんとていふや
松英

いとらんとていふや
妻井

いとらんとていふや
政涼

いとらんとていふや
松雨

己

己

高知城西市中

啼くくさくさなまきつるん 節云 憲中

くりぬくあけあきて月 嶽 貞母

何の涙よまわいおいても露白し 馬江

きよふら啼くも千きり 汐岸より 梅子

あよ儘てよまてなごりて曇るふ 之四

高知城東

どの門くさくさなまきつるん ぬくぬくれ 峯南 美程

涼しきやまの嵐くりに風の音 里書

潮の音も月の影に和くく 風也

筆の音もやちて指おれぬ月の 松尾

お勝やももかゝりのおしおひ 友之

あをよほよふふあわゆる小まきりぬ 梅南

宿いゝこれ瀧よりをきりけり林々 兔久

迷ひ子のほれよ年りあゝ曇るふ 山幸

あゝと原およまふれは深草にも 故川

秋の人の秋の夕て憂ふ暮れぬ
夜雀

さよののうら御せしきれ事
風た

うらひもありさきりぬるを
其泉

拍子よあふもえさうらぬ月おし
柳亭

早の床の寝こ寝よ秋嘆よぬ
彦江

そらやも川いし秋をありあう
古隨

輝ちあう橋よまじりよ親父い
昌存

みのおもつこく君よお日和ふ
女
海ん

梅咲くやれく屋よふ像え世
周路

初降や松り空もよせ身ん
比原

梅の由緒や思よ葉子ん像
竹士

ちりりあそい掃やりて門治り
比原

打あれまもさきしんあのみ
園青

さしや何つくさんはは
柳仁

角うさこも侍いさう茶摘
洛之

。枯と名のほのこさりの思をさ
其柳

遠くんとしと送るれり茶初梅 二松

り枯よりりのこころぬくぬく心 夜草

ふりりふりりて花影のほろろれ 池生

一ふりりふりりのこころほひり 松雨

各月や清もぬきぬおのろ 松屋

山より下りてくる水壱のそよ 茶一

ぬくぬくも日増しよき夜草 通後

二三所あくく一橋水門わゆる 和青

。松風と一あふりりう啼ふる 清可

日の影も松よりあつて静のあ 眉仙

合韻の志こちのろも清ふれり 琴那

るる舟やふりあふりり啼く佳 花友

池の氷もあふりりくと柳くれ 梅市

松の葉もあふりりうれりりりり 文意

ふりりあふりりりりりりりりり 紅葉

梅子月あふりりりりりりりりり 章風

その跡のなま〜と似た多いなま 唐堤之 言通

竹乃いそ〜 言息そ 繩月 宥毛 南之

松乃のい〜くお乃中 林の風 窪川 百星

あふや〜風もほ乃 芭蕉の 安喜 孝曉

言知

言能系ぬのありや〜 弁

石吹

た川武門三年

〜川〜ぬおりお〜り 萩の露

鳥山

〜水〜の 益を又およ 養うか

弁枝

尾乃の〜い〜とあ〜ち〜 弁

里雲

風乃やす〜し〜まのあ〜る〜

其胡

おの乃を〜も〜こ〜乃 善田が

可仁

えのす〜 障子〜も〜い〜ん きよお月

弁阿

乃の飯を〜と〜く 乃やのんこ 乃

花乃

乃〜川 乃のあれしお 乃〜乃 乃のいし

干松

。 乃り 乃のよ〜は 乃れ〜し 乃 乃 乃 乃

里凡

しろよの綿のいそぎのあはれ
 白雨
 さーけいよのやぶてきのあはれ
 老原
 神さるや ちやの氣も毎ると
 雨
 ささくれや田中の松も海へくし
 和偏
 時雨きけしとて流るる海へくし
 以松
 くらよ又第はのえんたはよひ
 五松
 梅はくやお日のまらるる義の縁
 雨溪

口る川

うらやうとておぼしむるあはれ
 吾祐
 布うさるる風よぬんとぬぬ
 五風
 獅子ややみよまのあはれ
 桂才
 ちよとくさるる心とて中しとて川橋
 乙字
 ちよよのころひ原もさるるあはれ
 鳥暖
 久礼
 常しりし愛あはれとて川 初舞
 梅乙
 かつの由し流るる文は橋の上
 雨舞

言ゆふ火のこまよま麻のあ
高の志や後居る世の神とらね
高代や舞くふく又こゝろは心
まゝゆきまゝ山むよらも揚まを
飯見
為孝
可笑
浦夕

情多中村

あはれ有れば紙獨はめてよなれ
あしほの有ぬまゝ月の秋
己白
夜霧

下田浦

まのりん何と知その夕白ぞ
不及

言知表陽ま中

あま〜りむと遊へてあはれ
一つあ〜りあひありあはれ
振神あはれあはれあはれ
葉のむや糸の境よりよ
山吹やうと朝よるあはれ
あふ〜くもあはれ〜に揚まを
如柳
たま
石居
百景
た字
里牛

中へ梅や空舟よ一棹おと海、仙居
新子や舟やまの日のあゝ山白雲、以危
その氣のちもほほくりにまじりて、
和くも清くもゆくもまよふ哉、
舟はほほくりにほほくりにほほくりに、
のま

際海

九飛

定登川
蘭吾

冠へくはのほくりに雲をたると
下まふやあふくも近よりのま
之

林風や雲がくはれり灯の火
白くも言ふまふくもまのま
之

園防

岩園

あつくは村よりまいてまのま
之

小松ま

名月や花を舟よりのまのま
被屋まのまのまのまのま
赤くも清くもゆくもまよふ哉
其れ

久賀浦
和香

下松

目くさかてきふんふんふんふんふん 不仕

かのかやまのこころはゆるり 林多

まきゆや松しきりし和らむ 如舟

おくきやまのまきしわらうらむ 花流

浩態

穀ろの流るるよはかたむちん 赤尾

清きまの家のちあつて田畑ま 倭毛

まかぬとや我よぬかきとや 志ね

あうたや佳れしとてとて 巻山

日積

乃てとんふしはききふふふふ 孤秀

通津

芥子初や際しゆきしめあしと 竹若

そつしと涼風ふんふんふん 愚凡

その月や指し癒ておとこ 梨生

借りたのせりふものやよも乃多 浮水

長門 秋武門連中

菊の香や夕暮と唐子の明きねり 以真

此等客もや此川は心きんもの言 骨水

鶯や雛のよ折下は心てやあり 右和

端崎や枝木は岩の夕方くれ 舟也

昔々のいやはつとやもたらは心はれ 也多

苗代や流るる合点れさなりあり 浮舟

余はのよも抱て色もやも解る 其有

筑紫の 博多唐田連中

空も夢のやうえりては瓢のれ 吾涼

言水を唐もさる実すつ子い 素角

け時より礼心いしてこそふ 重長

名たり唐もあはれ林のさる 吹風

新江やあねよ生まき烟の中 佳木

船のよもは流るる心はれ 佳明

あふふかゝ風のすくさる 砧うふ 如皓

こころもあふふの指さす指れい 吾ら

目をさすていさふしあり 玉糸ふ 里人

初ゆや信んてんふふふは管家 呂範

ふふふふふふふふふふ 二日月 文推

秋の影もあふふふふふ 兎江

肥家 長崎

いふふふふふふふふふふ 十月

。それくよ名もふふふふふふ あり

あふふふふふふふふふふ 吉炊

あふふふふふふふふふふ 梅庫

ふふふふふふふふふふ 帰北

あふふふふふふふふふふ 公志

あふふふふふふふふふふ 以十

肥後 所獲ふ處阿

。あふふふふふふふふふふ 産蓮

早もあれ人を妻月よむねふ 中松

老後 杵築

清きけむくさふ庭ちをわふ 常里

河内守

そすしぬうをうたの流きふ 林園

夢のむや日のさるくは信喜流 文雀

燈のゆやあふおとくくさのそ 吾際

柳くわさふさうとさうものこ 証仙

風のゆりく水て々 榮三

ほのほきよ善の丸屋名細代も 菰白

菘垣の猿目あそくむねを 河原

松風のさしかくさかむらね 清耳

おそよよ片松咲きりやの梅 素川

谷月やうんさるこもぬきこも 虫二

谷水のゆけけぬや梅のこ 有之

房うて庵さかふたの月ふい 滝花

うづ松やさしあそこ家松のうき

松末

勝よ松ふ船よりちりもむし柳ふ

可変

おしるよちと連れあひるもあつ

朝こ

際しくもさるをけちるしむの夜

左木

あ松やまふき月とめいせん

聴角

初午や毛いさる居まこ越し伝

橘吾

鏡子夢や寐の遠の琵琶法師

小菘

松ふく折れこいれ山てあそぶ

公飛

房の留るぬくりさすの瓢のれ

柳多

路いほくの赤も志はト松の赤

吉原

ちと耳れをふらるる松原ゆか

志本

をきあや汗よりかまこ松の上

ねる

。ニこ人々年をふり何多々集

乙馬

。義は所も海とまよは松の月

松茂

あつ水ぬ沈め向らやあそぶ

蘭戸

あつまこ山とるしりみま

東屋

おゆいあしあけの早さ
新ぬいあしあけの早さ
善満

石見

湯原房連中

そとあしあけの早さ
石見

うきあしあけの早さ
石見

梅のあしあけの早さ
茶房

ほろあしあけの早さ
孤仙

そとあしあけの早さ
可也

おゆいあしあけの早さ
途川

梅のあしあけの早さ
梅雨

おゆいあしあけの早さ
文多

おゆいあしあけの早さ
柳子

おゆいあしあけの早さ
柳江

おゆいあしあけの早さ
三橋

おゆいあしあけの早さ
沙明

むしり穢る子をる辰や春乃雨、井辰

新のなをし 春のまの花のう南 大田 林娘

もろ赤やまの山を中の子をる辰 善辰

ぬたふふふむささてはほろけ 好く

今い暖涙しうふ世別て紙懐 吾江

初丁や宮ふしあゆの糸しらき 其文

春の目をとらわ初の一ふうれ 糸之

雪の中よその雪はうー 袴の舞 糶天

折くい髪掻くふく 伝くれ 罪草

水ももれ伝ふと、のやまを伝 芳春

糸もろや指の 袴の舞はし 玄川

うらふまぬー ともあ火燈る 湖洲

山里帯がまよ紅糸糸子解 奥坊

出雲

潜る鹿さ中

長鹿と指す息をこを 新い 吉市 吾初

躍えよこもれさる杖忘れさる 以一

あはれなるもしきるのこりやあめいし 西入

あはれなるもしきるのこりやあめいし 尾 逸志

まじりの鳥習子おりのまじり 馬柳

あはれなるもしきるのこりやあめいし け指

一穂二穂およおひの藤子 文露

まじりの鳥習子おりのまじり 一知

あはれなるもしきるのこりやあめいし 芦行

あはれなるもしきるのこりやあめいし 柳柳

あはれなるもしきるのこりやあめいし 乙鳥

あはれなるもしきるのこりやあめいし 不尺

あはれなるもしきるのこりやあめいし 期文

あはれなるもしきるのこりやあめいし 三トヤ 牧羊

あはれなるもしきるのこりやあめいし 寸松

あはれなるもしきるのこりやあめいし 借 百葉

あはれなるもしきるのこりやあめいし 東明

あはれなるもしきるのこりやあめいし 完車

り旅よりけり公程の層意くわ
はそつ水と踊るよまてかき引あふ
火と燃てアらしうあり漆のあ
危のよもむりしんおん結ふ
まのまねあふてゆとの山涼し
都くたよ志川と危どのクたは
よみつけのよのそれ下を氷の音
ふんふん山やまふれてるの月

長谷 色見一
坂下 岳古
李白
墨斗
魯川
何を

まの杖をきき 隣先とらん不裁 一柳
姫むらさき人よこそあは星守者 尻中
おしり言つて 山田北原あは 時方
さうあやその言もて 吹んふし 洞孝
夕白のや半涼まてて ねふし 中三
余のそこれほよ合やめてかんこふ 草肥
怪なりやた禪のまををまうも 路春
木棉よりよもふもふまふまふ 石明

大馬本

第^一のお志ありか減やまのそと 以文

草花やも扱やうてふれく ^{かき} 徐行

そくおあゝの言やもまゐる 棠下

子とはおてらふよまゐるあつれ、 常春

笑いの敷もいゝるう苔のそと ^{小うす} 瓦葺

涙ふ目をほくもいゝるお菊 ^{木次} 花十

そくいふ言やもいゝる凡やもやふ 枕川

よあつる言やもいゝるおれ神あふ 一路

蝶掃く志まゝの梅も席りまゝ 草仙

こらよこゝの顔もいゝるおん ^{かき} 笑馬

道持の志まゝのまゝ ^{かき} 喜あ

め店もいゝる子の火燈り ^{かき} 程凡

けのいゝる佛もいゝるおん ^{かき} 草中

名月やもいゝる座も掃く席り ^{かき} 其流

福もいゝる葉もいゝるおん ^{かき} 瑞草

まゝいゝるおんおん ^{かき} 溜川

藤の香よまきとれ秋のそよより 芳美

早よりなれそよまらうも時を 素琴

岸陰も水仙咲くや春華や 子柳

葛遠くもやまゝと畑細のひより 竹裡

うき花もやおい狐火の燃ゆる 栢崎

段屋を約る新や女房のこゑより 其水

るはぬり動くぬきとてこゑも 沛艾

隠れ家やぬきとて只いふ葉草 如之

約木の介此をうたをゆりて 可成

此もや来る人中水は苔のそ 孤雪

松のまやちりよとせとて流る水 中艾

水よりやぬきとてまの中心より 富連

此の契のあひもやと水川に花 松山

此の後あひもやと水川に花 三行

菊もやまゝとて仙のこゑもや 可成

さよとてもやおつれも梅の妻 南窓

一七
一八
一九
二〇
二一
二二
二三
二四
二五
二六
二七
二八
二九
三〇
三一
三二
三三
三四
三五
三六
三七
三八
三九
四〇
四一
四二
四三
四四
四五
四六
四七
四八
四九
五〇
五一
五二
五三
五四
五五
五六
五七
五八
五九
六〇
六一
六二
六三
六四
六五
六六
六七
六八
六九
七〇
七一
七二
七三
七四
七五
七六
七七
七八
七九
八〇
八二
八三
八四
八五
八六
八七
八八
八九
九〇
九一
九二
九三
九四
九五
九六
九七
九八
九九
一〇〇

捨つてあつた夢を覚めて二月ふ 其陰

そのふらりきふふらりのきふら 治長

昔花やをよぶる人いぢり 盧母

よきききききききききききき 堀西

昔花や日文の糸の起るうい 南水

あつてよききききききききき 梅清

うらそのききききききききき 一喜

梅津 大坂

りてききききききききききき 菊池

伊勢 幸名

ききききききききききききき 長江

山岡

あつて脚際起りきききききき 可子

晴ふらきききききききききき 遊々

和泉新田

名月やきききききききききき 松州

尾張

名護屋

楓九橋

女羽子

池より明るくく夜の恋

名月やる踏海より

浮きや二方めれ信てよの夜よ

とくえんくさうう嬉ひて一ふふふ

正月や餅片く中よあうは

ゆらりおらうくくおらう人

くたきや鳥のあいのちの川よ

おしんくおしんくおしんくおしんく
梧友

日ぬれよさうくおしんくおしんく
不戈

田子のしんくおしんくおしんく
狐室

鳴くしんくおしんくおしんく
駮列

お産や金川りりきんくおしんく
赤線

あまをいんくおしんくおしんく
あ南

鳴れていんくおしんくおしんく
琵琶抄四
風曲

あまのさの迹や桂うれ
双走

柳一よ春門の雨く日和る 霞夕

川小らやうらうらなほさよふの夜よ 小舟

庭花もやあふぬの上とささあゆむ ^{六才} 草所

長閑さや柳柳よ笑のむらうい 如英

それらもよそは春さむや草の香 蓬襟

啼く音のおよけりあうらうけり子 羽石

おききや月もほほや露一水 川木

室も清えてわのむのちるおめくれ ^{六才} 喜山

まよふのさるやうらうらなほ ^{井ノ口} 扇士

ねんじらう一日そのなうと我 ^{中野} 梅三

お白や短中を流してぬるちや ^{東起} 糸石

春に際のをさばよあもをさ原うか 冬扇

同姓をうらうらやう ^{木下} 宮 九梅

絵もしやうアアやう ^{素心} 梅

夕暮や流の一夜まき ^{龍崎新田} 南浦

縁の園もさうらう ^{龍崎} 天

くもきりちるけのみの籠の糸 去路

るの尾志橋に縛くをふれ 無格

は浮の一かきを一活の中 北由

何となくは甚弱きともふきの身 馬六

日新

かたはあり蓮よき山と何佛 下牧

日新

一里をききん泊りや夕まに 十圍

格なき

やとせんはて枕打とるなを内 全

おふのちのよしやうとの和 全

あう水やむ屋の店も炭きつら 全

執大田

おとく海掃とせー下隠居多 去庸

あそくの定まらるるも梅を 透呂

終子帰くも... 山崎 去文

風の吹く... 山崎のそよよ 去亮

何を山目も捨つぬらんそのまゝ
呂丘

麻中やゆい。ふを捨たしん
何三

床のまゝや片山くく上も月夜
調字

あふくももるる方の歌きんひ
文章

さくくや又十年の歳さき
斗百

へとね鳩の羽もや神のるま
波打

梅うまや塚のあたしん下結れき
一通

きりやまおしんけ日和
兔牧

カ行松

さくらんをゆきあふく井の塔
梅吾

海西色中

お梅や小むきん歌く流のめは
大原 鹿及

笑うくくしん歌くあゝ畑のまね
翁上 流く

梅おく際子めらけれと哉
八尋 翠牙

月うぬぬるまのま原一なるまき
平傳 風樹

雲千や幸くぬきてあそくねし
木合

松よ義のいふしより 晴月 瑤土

きんろくや 退屋さや 長燈 きんろく 秋華

晴くもや けりしと 船のきりし時 菊庄

里塚

きりしきりや 低ふ枝 ちりり 二滴

ト一色

けいれん ころよ ありしころ 望み山 里和

里塚

きりしや ころよ けりしころ 望み山 市ノ原 卓路

。と日月と 枝よのころ して 望み山 持 掃き

唯れの花を ちりし 掃き 凡そ

早しき月の 望み山 ちりし 望み山 萩原 李節

追加

去依る新武門

きりしや けりしころ 望み山 望み山 池柳

唯しきりしころ 望み山 望み山 望み山 佳々

四十一

四十一

越後下条

その岸の青を何まうそ栲をく
菊文
高はひて心る。二日夕くれ
里翁
さりち〜栲をゆふふのあしとひ
小お
むせ〜栲をひさくやなを
花庵

出羽子原赤湯

御房このまを〜丁次時雨れ
湖重
〜栲のまを〜栲のま
浮流

苔木の心や下栲とをせねと泉る
きん 泉可
風やぬふ心さ〜栲のま
ま 曉を
鹿川〜心や〜栲れ栲れ
文和
さる〜心や〜栲れ上世中〜
杜流
芥を〜栲〜遠を〜栲川〜
里翁
中ち〜心〜人よ〜栲我
宇翁
考〜心〜松〜心〜栲川〜
五栲
栲川〜心〜栲〜心〜栲川〜
度江

あつて...
し...
昨の...
追...
九...
片...

あつて...
越

あの手...
海堂園
彦量

丹後田辺

ま...
松

居...
木

新

移...
其

私...
竹

仏...
比

山...
各

苗代や鳥やどあふにきひく倍 未出

ちよのい肩けおとくはまの志 遺志

女子よ切ると居る西風うね 陌芝

一ハやを石りく川 玉を成し 階堂

月とこー松やまゝの二交の橋 馬中

木急やまふ人けよまゝ氣あふり 伸子

里ありの花をよこり 炎うね たゆ

このふ神風の吹く松蔭に 清き

まき物やふしとるるん 山李

まき物やおあ川きりて 祝ふ 呂水

初まらや葉本粥めりよ 依客 旭周

右各縁起あり終りつらんを
撰者の名を後より詳しき出ス

安永七戌九月

蕉門書林

京寺町二条下冊

橋屋治之清梓

三

三

